

ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2012年4月～2013年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表  
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満  
たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させてい  
たきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 江東区立八名川小学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中等高等学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 その他（ ）

住所 〒135-0007

E-mail : t-tejima@koto-edu.jp

Website : http://www.koto.ed.jp/yanagawa-sho/

児童生徒数：男子 183 名 女子 184 名 合計 367 名

児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 担当者

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
  - 世界遺産
  - 平和・人権
  - 環境
  - 気候変動
  - 生物多様性
  - エネルギー
  - 防災
  - 食育
  - 伝統文化
- そのほか（ ）

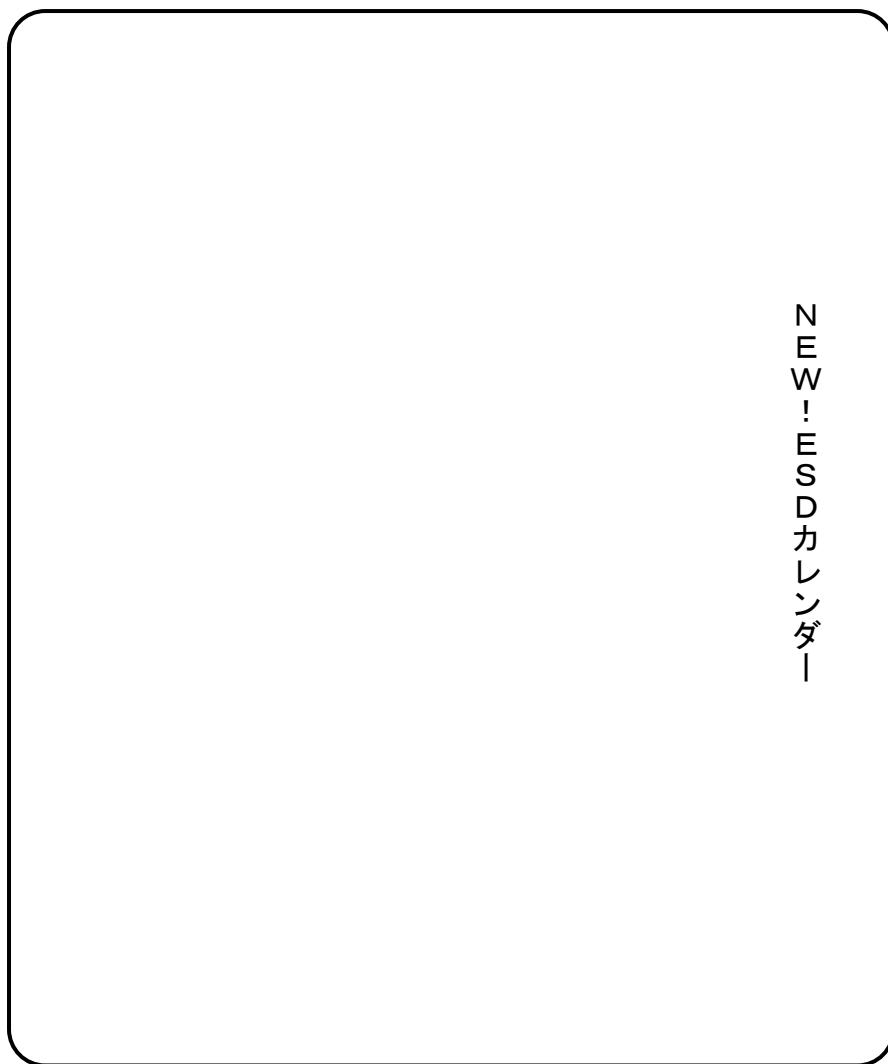
4. 活動概要

1年間の主な活動内容について簡単に記載願います（欄が足りなければ、添付資料をつけていただいても構いません）。

## 1 教科横断的な学びの構築

### ①全学年における NEW!ESD カレンダーの作成

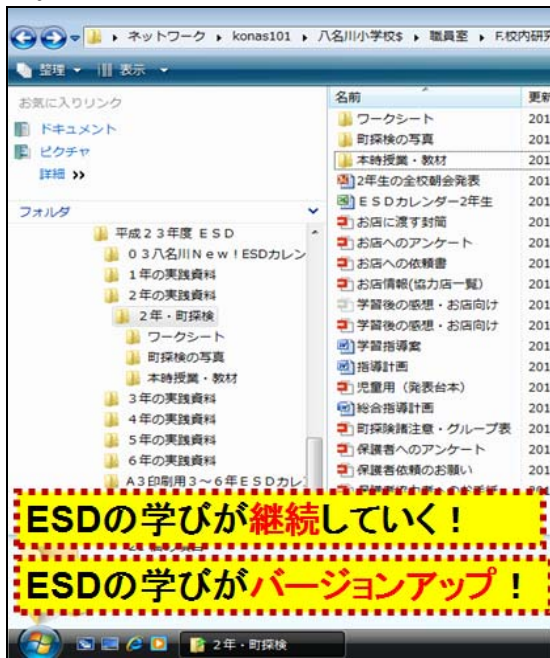
従来の ESD カレンダーに、「指導時数」「単元のねらい」「主な学習活動」「地域人材との連携」を入れ、NEW!ESD カレンダーの作成を行った。そうすることで、教員の異動や学年の入れ替わりがあっても、教育活動の継続性・発展性を保つことができるようになった。



### ②データによる指導資料の蓄積と更新

実践で使用した資料や授業の様子が分かる写真などをデータとして、單元ごとにパソコン上のフォルダーに共有し、次年度の取り組みに活用していく。データは、学習指導案だけでなく、ワークシートや取材先への依頼書など実際に授業を行った時に作った資

料を入れていく。こうすることで、ESDの学びが継続していく。また、同じ学習内容を新しい担任がバージョンアップして指導を行っていくので、より発展したものになっていく。



## 2 問題解決的な学習過程の重視

### ①問題解決的な単元展開シートの作成

問題解決の過程を「学びに火をつける」→「調べる」→「まとめる」→「つたえ合う」といった分かりやすい言葉でフォーマット化することで、指導の流れをイメージしやすくし、誰でもそれに合わせた学習過程の工夫を行えるようにした。



②各学年で育てたい力を明確にした評価規準の作成も行った。子どもにどのような力を育てたいのか指導計画を作成しながら確認することで、環境教育や多文化理解など学習する内容が違って、学年に応じた問題解決力を育てていくことができるようにした。

学習過程	問題解決で育てたい力	ESDで育てたい力		
		1・2年	3・4年	5・6年
	問題を見出す力	① 自分のやりたいことを決める。	① 学んだことから、自分の興味・関心をもとに問題を見出し、その理由が言える。	① 学んだことをもとに、誰もが大切だと感じる問題を見出し、それを整理することができる。
	計画を立てる力 (予想・見通し)	① 自分が立てためあてをもとに活動をする。	① 解決への見通しをもち、活動する。	① 解決への見通しをもって活動し、必要場合は、計画を修正する。
	問題を追究する力 (解決・追究)	② 活動に必要なものを考えることができる。	② いろいろな方法で集めた情報をもとに、より良い方法で解決する。	② いくつかの資料を吟味し、読み取った内容から自分の考えをもち、解決する。
	分かりやすく表現する力	① 活動したことをみんなに分かるように発表する。	① 調べたり、活動したりして考えたことを工夫して発表する。	① 自分の意見が相手に伝わるように、効果的な方法で発表する。
	振り返る力	① 自分の工夫したことや頑張ったことが分かる。 ② 友達の良い所に気づく。	① 自分や友達の学習活動を振り返り、成長したことに気づく。	① 自分や友達の学習活動を自分なりの視点をもって振り返り、改善点を考える。
	実生活に活かす力	① 友だちや先生と立てた計画をもとに自分の役割を責任を持って行う。 ② 学んだことをもとに、自分の生活を振り返り、何ができるかみんなで考えることができる。	① 友だちと話し合い立てためあてに向かって、自分の役割を考え、計画的に実行する。 ② 学んだことをもとに、自分の生活を振り返り、何ができるか自分で考えることができる。	① 友だちと話し合い立てためあてに向かって、グループの役割を考え、メンバーと協力し、計画的に実行する。 ② 学んだことをもとに、自分の生活を振り返り、より良い生き方を考える。
	人と関わる力	① 友だちや地域の人々の話を聞き、感想をもつことができる。	① 友だちや地域の人々の意見の良さに気づき、自分の考えと比べることができる。	① 立場の違う人の考えを取り入れ、自分の考えをより良いものに練り直すことができる。

### ③学びに火を付ける導入の工夫

子どもたちの問題解決能力を育てるには、単なる教え込みだけでは不可能である。指導計画の中に、意外性や矛盾など、驚きや問題意識を感じる場面を作り、「このことを調べてみなくては…」という必要感、「家族や大人に伝えなくては…」という使命感、「自分たちのできることから取り組みたい」という責任感を学習のスタートで、子どもたちにもたせることがとても大切である。このように学習の動機付けをすることを本校では「学びに火をつける」と呼んでいる。

「学びに火をつけるためにどのような工夫が必要か。」年間6回の研究授業で指導法の開発を行った。

## 3 情報の発信・交流による振り返り

### ①児童による学習発表会の設定

本校では、1月行事に「八名川まつり」を位置づけている。児童の学習を踏まえた全校

ESD 発表会と言えるまつりである。学年ごとに自分たちの学びをもとにプレゼンコーナーを開き、発表をしたり、聞きに行ったりする。このような活動を通して、児童の発信力や表現力の育成を図った。

## ②教師による実践交流会の設定等

教師も2月に地域・保護者・ESD関係者に向けた実践報告会を開いている。研究授業がその後どのように展開されたのか、授業でどのような仕掛けをしたら、どのような活動が生まれたのかなど情報交換を行った。

- 4月 新年度全体保護者会プレゼン
- 5/17 岡崎市教育長 江村力様 来校
- 5/29 多摩市みらい会議（多摩一小）にて提案
- 6/11 文部科学省 国際統括官 加藤重治様 来校
- 6/14 日経新聞にて食育授業掲載
- 6/29 日本教材学会 ESD 研修会 にて基調提案と実践報告
- 7/ 4 藤岡市教育委員会ユネスコスクール研修会にて提案
- 7/28 日本学校教育学会にて実践発表
- 8/ 6 豊橋市立章南中、名古屋市立片平小より来校
- 8/ 7 ユネスコ国内委員会ユネスコスクールワーキンググループに資料提供
- 8/ 8 彦根市立城陽小に講師として職員派遣
- 8/27 韓国政府日本教職員招聘プログラムに職員派遣
- 10/19 中国教育職員招聘プログラム受け入れ準備（来日延期）
- 10/22 区カーボンマイナス表彰（5・6年受賞）
- 11/23 ユネスコスクール地域交流会 in 関東にて提案
- 11/26 香川大学教育学部伊藤教授来校
- 11/28 ESD テーマ会議 2012 歴史文化遺産教育について提案
- 12/ 7 愛知県東浦町教務主任 10名来校
- 12/17 区ユニバーサルデザイン発表会（4年発表）
- 1/10 韓国大邱市教育庁小学師7名来校
- 1/11 ユネスコスクール研修会 in 九州にて提案
- 1/22 八名川まつり参観受け入れ
- 1/26 第4回ユネスコスクール全国大会にて資料提供
- 1/29 上智大学北村友人教授来校
- 2月 江東ケーブルテレビ 5年授業・八名川まつりなどユネスコスクールとしての活動紹介番組（30分）放送
- 2/27 ESD パワーアップ交流会来校受け入れ
- 2/28 大牟田市立平原小より来校

また、本年度は、実践交流会を「ESD パワーアップ交流会」として公開し、ユネスコ国内委員会等の後援も得て、どの地域・校種からでも実践報告を行える場に改め、ESDの拡大と深化を図った。また、様々な機会を通じて、国内外に向けた発信を続けてきた。

